

平成29年度第1回総合教育会議 会議録

- 1 日 時 平成29年6月23日(金) 午後3時30分 開会
- 2 場 所 東松島市役所 本庁舎2階 202会議室
- 3 出席者 東松島市長 渥美 巖
- 東松島市教育委員会 教育長 工藤 昌明
- 東松島市教育委員会 委員 菊池 伸之
- 東松島市教育委員会 委員 福田 ゆかり
- 東松島市教育委員会 委員 木村 和彦
- 東松島市教育委員会 委員 鹿野 あい子

(事務局)

東松島市総務部長 川田 幸一

東松島市総務部総務課長 小山 隆

東松島市総務部総務課秘書広報班長 鈴木 純子

東松島市教育委員会教育次長 奥田 孝信

東松島市教育委員会教育総務課長 勝又 啓普

東松島市教育委員会学校教育課長 仲上 浩一

東松島市教育委員会生涯学習課長 柏木 淳一

東松島市教育委員会学校教育課指導主事 黒沼 俊郎

東松島市教育委員会教育総務課教育総務班長 奥田 和朗

(説明員)

東松島市保健福祉部健康推進課長 大崎 昌宏

- 4 傍聴者 なし

- 5 開会

○小山総務課長(司会) それでは定刻になりましたので、ただいまより平成29年度第1回の総合教育会議を開会いたします。開会にあたりまして渥美市長よりごあいさつを申し上げます。

○渥美市長 みなさんご苦勞様でございます。こういう時間帯に集まっていただきまして私自身も、4月29日からということでもまだ2カ月ならずというところがございます。今日もいろいろ水防の状況関係、調査してまいりました。今年度の第1回東松島市の総合教育会議このことについて、私もあまり存じておりませんでしたが平成27年の4月ですね、法律の改正、一部改正がありまして、これ

までのようなかたちから教育委員長と教育長の一本化があったりですね、それはまさしく責任体制の明確化であったり、それから教育委員会の審議の活性化、さらには迅速な危機管理体制、そして地域の民意を代表する市長と連携の問題とかいじめの問題とかそういうさまざまな問題を国との関連再発防止を国との関連を含めた、国がしっかり指示ができるように明確化したというのが、27年の4月、そんなことから27年には2回くらい開催されてその後28年度、29年の早い期間に28年度中ですか、開催されて本年は29年度としては第1回の会議でございます。いろんな議題がございまして、これまでも学力の問題とか不登校の問題、やってきているということでございますが、実は私もこの市長選挙に向かって東松島市の学力が県内なり全国の平均より若干落ちている問題とか不登校がちょっと多い問題とかですね、いろいろありました。そういうものをふまえながら、ぜひ改善していかなければならないなという思いも持っておりました。こういうような機会の中で教育委員さん、教育長を始めとした教育委員の皆さんにですね中心になって、東松島市の教育問題もしっかり議論していただくというのも非常に意義のあることだなと思っておりますし、今日ここでの会議がしっかりと現場の方にもしっかりと伝わっていくことが何より大事ではないかと思っております。後は私はあの選挙の中でも英語教育の問題、国際化の問題なんかも捉えております。青少年の健全育成というものはどうするか、それぞれ少子高齢化を迎えた学校の中での、それぞれ学校でやる施設の整備の問題なんかもあるんですよね、そういうものも捉えながら、今東松島市でおきている様々な問題、一番大きいのは東日本大震災から6年と3か月ほど経ってしままだ仮設にいるという状況もあります。これらについても順調には復興は進んでおりますけど、しかしまだ最終的には道半ばであります。私は先ほど言った学力の低下の問題とかさらには不登校の問題とかやはりこの東日本大震災とのからみが非常に多いのではないかと思っております。これまで仮設住宅とか避難所にいた子供達が今までいた子供達もそういう環境にあったわけですし、被災してお父さん、お母さんの仕事がなくなったとかそういう家庭環境もあるわけですね。そういうところを総合的に見て、果してこの子供達だけの学力低下なり不登校が責任かという、必ずしもそうではないものもあると思います。それはやはりこういう公の市なり、教育委員会なり、地域なりがそれにどれだけ関わっていけるかというのは非常に大事だと思っておりますので、どうぞ今日、東松島市の本年度の第1回の総合教育会議でございますので、さまざまな意見を出してもらって、どうぞこの東松島市の将来の宝であります子供達のためによりしくお願いしたいと思います。今日は本当に忙しいところお集まりいただきましたことに対しまして、感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

○小山総務課長（司会）　続きまして、本年度第1回目の会議ということで出席者の紹介

をさせていただきます。

<本日の出席者の紹介>

それでは早速議題に入らせていただきます。総合教育会議運営要綱第4条第2項の規程により市長に議長をお願いし進めてまいりたいと思います。それでは市長よろしく願いいたします。

- 渥美市長** はい。それでは要綱の定めるところによりまして、議長を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。早速議題に入りたいと思います。議題（1）食育についてでございます。健康推進課長から説明をいただいたうえで議論を進めていければと思いますが、それでよろしいでしょうか。では、そのように進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。それでは、健康推進課長説明をお願いします。

6 議 事

<（1）食育について 健康推進課長より説明>

- 渥美市長** はい、よろしいでしょうか。今大崎健康推進課長から東松島市の食育について説明がございました。ただいまの説明に対しまして何か質問等あれば発言をお願いします。

- 工藤教育長** みなさん考えている間に。ありがとうございます、課長さん。県の全体の肥満度も高いと認識不足で、おっしゃるとおり東松島市も市長さんが最初にお話していたとおり震災の影響もあってですね、ひとつは支援の甘いものをたくさん頂いたんですね。そして、おまけにスクールバスで通ったりして子供たちですね、運動会なんかを見てもコロコロと太った子が走っているなという印象を持った時期もありました。そういう意味で肥満の解消、運動をしつつ食育も大事だなと思いましたので、大変いい話をいただいたと思います。しっかり学校教育の中でも進めていきたいと思っております。ありがとうございます。

- 渥美市長** その他に委員のみなさんありますか。はい、木村さん。

- 木村委員** 委員の木村と申します。健康づくり教育セミナーの中で大曲小学校が学年PTAの行事の一環として実施しているということで、ここがいいなと思いました。子供または学校の先生だけじゃなくて、やはり家庭教育といいますか親子で学ぶということが、すごくいいことだと思います。ぜひ各学校で大曲小学校だけではなくて、PTA行事の一環に入れていただけるとすごくいいのかなと思いました。

○**渥美市長** はい、ありがとうございます。今の木村さんの意見に対して他に何か関連してありませんか。はい、菊池委員。

○**菊池委員** 教育委員の菊池と申します。まさにその通りであって大崎健康推進課長、大変お忙しい中いろいろとPRしていた所は拝見させていただきました。先ほども言ったように義務教育の6年間教育委員会としては、やはり朝の朝食というのがずいぶん大きく取り上げられています。ということは、やはり親の教育というのが非常に大事になってくると思います。ぜひそういう教育セミナー的なところに波及していってもらえればなと思いました。

○**渥美市長** はい、大崎課長。

○**大崎健康推進課長**

はい。今の朝食の話もでたので関連してお話させていただきたいと思うんですが、こちらの方で調査した内容で、朝食を取っているか取っていないかアンケート調査した結果がございまして、その結果を見ますと20代男女30代成人ですけども、2割位朝食を食べていないという結果が出ています。そうなりますとやはり、お子さんもそこまでの数字ではないですけども、10パーセント弱くらい朝食を食べてきていないという結果が出ています。やはりその辺はご両親の方々が、そういった朝のお忙しい部分もあるんでしょうけども、やはり親の姿を見ながら子供は育つという部分もあるでしょうし、ご自分で作って食べるという部分はなかなか少ないことだと思いますので、やはりご両親の方がそういった部分で食の意識を高めていただくのが、非常に大事なことだと思っております。以上です。

○**渥美市長** はい。教育長さん、今の話でよく宮城県なんかでは、早寝早起き朝ごはんというひとつのですねキャッチフレーズでこれまでやってきたんですが、東松島はそれはある程度徹底しているのではないですか。いかがなものですか。

○**工藤教育長** その運動はもう全県的にやっていますし、各学校でも進めておりますし、進んでいると思いますけど、現実にはですね朝ごはんを食べてこない子供さんというのはいます。私が校長の時もいましたし、学校に来てから食べてないお腹空いたということで何か食べさせたり、そういう例はあるんですね。ですから、それは例えば私も朝に子供が来ないと迎えに行って、あまり言いたくないのですが皆さんで寝ているんですね。起こしてそして連れて行くとなるともちろん食べては来ませんし、ですからそれはただ親を責めても改善しませんので、なんとかこう支える仕組みとか、それをしないといけないなと思っております。

○**渥美市長** はい、食育というのはいろんな面で先ほど大崎課長が言ったように東松島市ではメタボの県内でワースト3位ということで、新たに今回の6月の補正予算で、例えばゆふとに歩く健康増進機械みたいな物を入れたり、これは国の補助事業で入ってるんですが、そういう物を入れたりそういう形で少しでも市民全体の健康づくりのためにやっていくとなっておりますので、そういう流れで進

めていきたいと思います。また、もうひとつ私はこの食育の中で昔は東松島市も鳴瀬町も自らの給食センターを運営してきました。今は給食センターは完全に委託しているその状況について私自身はどのような評価されているのか、そしてそれが委員のみなさん始めそういうことについて現場も含めてですね、どうなっているのか、あとは現在の給食の残食なんかはどのような状況なのか、その辺は何か出ているのがあれば、ありますか。

○**工藤教育長** 把握しております。残食について私から、あと補足があればしてもらいたいんですが。給食センターの所長とこの前話して、昨年度の結果として一昨年度に比べて残食率は減っているという報告があります。それから、教育委員のみなさまはよくご存じですが、宮野森小学校の残食率が非常に少ないんです。ここが3パーセント未満で市内全体が17、8パーセントが普通なんです。それが、去年は14パーセントになったという報告がありまして大変良かったんですが、その中でも宮野森は3パーセント未満という大変な残食率を誇っております、たくさん食べるから宮野森の子は太るかという決してそうではなくて、きちっと食べることによっておやつを食べないので太るということはないんだというのが校長先生の説明でありました。

○**渥美市長** はい、分かりました。この目標でようするに地元の食材をどうのこうのと言うのも書いてるんだよね。だから、そういうものが確実に使われているかどうか。その辺は大丈夫なんですか。

○**大崎健康推進課長**

給食センターの方でどれくらいの頻度かわかりませんが、地元の食材を使った給食をお出ししているというようなお話は聞いてございますので、その辺を連携したかたちで地元食材も提供するようなかたちで、取組んでいければと思います。

○**渥美市長** はい。じゃあ、あと学校教育課長さん何かありましたらお願いします。

○**仲上学校教育課長** はい、大丈夫です。

○**渥美市長** よろしいですか。それではまず一番目の食育についてはこの辺でよろしいですか。あとございせんか。それでは次に(2)いじめ問題についての現状について資料に基づき学校教育課長より説明をいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

< (2) いじめ問題について 学校教育課長より説明 >

○**渥美市長** はい、ありがとうございました。ただいまの学校教育課長の説明に対しまして、何か質問ありませんでしょうか。

○**工藤教育長** はい、教育委員会は常に話し合いをしておりますので、市長さんからご発言いただきたいと思います。

○渥美市長 このいじめというのは、国会議員もいじめをして辞職するそういう問題ですから、これは人間のどこかに住み着いているものなんですよ、いじめの構図というのは。それをしっかりと出すか出さないかは、それはやはりそういういろんな教育を受ければ、我慢とかいろんな事が出来るんでしょうけど、そのへんやっぱりあるんですね。ただ、いつもこの問題がマスコミにですね一番大きく取り上げられて、そして最終的には最初の教育委員会それぞれのテレビで出てきた教育委員会が、最初はあまり力を入れて調査しないで、最後にいろいろ声が出てからやむなく調査して、そして、これがありましたというような状況がよくこれまであるんでね、私とすればいつも教育長が言っているように、早め早めにその報告を受けて、事前にその対策をやっていく以外はないのかなと逆に思っているんですね。だからもちろん学校、現場の校長先生なり教頭先生のそういう日頃の配慮も大事だし、今回も6月補正予算でですね市としての出来るだけそういうことがないような形で、教員の増員というかたちで一応は特別ではないですが、市の単独で予算を計上しているということでもありますので、あとは現場でなんとかしてほしいというのが私の考えなんです、教育長さんそれに対してよろしくお願いします。

○工藤教育長 ありがとうございます。具体的に仙台市の例なども報道されるのを見るにつけて、明日は我が身かなと思いつつ見ております、いつも。今、学校教育課長からお話あったように、本当にどこの学校でも、どこでもあり得る話という認識で、緊張感を持ってやってないと駄目だということで、すでに校長会や教頭会でも悪い報告ほど早く出してもらいたいというのを伝えながら、その代わり悪い報告を出すということは、聞いたこちら側が責任を持つよということですから、一緒になって対応しますよということですから、その姿勢を学校の中でも管理職が職員に対してですね、きちんと悪い報告は出してくれと言って、早くその風通しのいい形で情報共有してみんなで対応していくということが必要だと思っております。

教育委員会としてはですね、市長さんにご迷惑が掛からないようにまず教育委員会で最大の努力をして、しっかり対応していきたいと思っております。いじめが起きた場合の対応については、生徒指導支援委員会とかあるいはいじめ問題調査委員会、それから市長さんが管轄されますいじめ問題再調査委員会というのも制度としてしっかり出来ておりますので、起きた場合の制度は出来ておりますが、起きないためにしっかりですね、いじめをしてはいけないという指導の部分とそれから、本市では人権教育を大事にしていると、人を大事にする気持ち、どの人も誇りを持って生きる権利があんだということを、みんなで共通認識して子供も大人もですね、そしていじめに陥らないようにというふうに思っておりますので、ぜひこれも皆さまのご協力をお願いしたいと思っておりますのでございます。

○渥美市長 いじめ問題はやはり先ほどの教育長のお話にある通り、教育委員会としても

これが起きたら大変な問題でありましてですね、出来るだけ事前に予防をですね、いじめにいかないような予防を全力で行うということで。あとは質問はよろしいですか、いじめ問題については。ありがとうございました。では、いじめ問題はこれで終わりたいと思います。続きまして議題の（３）学力向上対策について学校教育課長より説明願います。

<（３）学力向上対策について 学校教育課長より説明>

○渥美市長 学校教育課長さんありがとうございました。ただいまの説明について何かご質問はございませんでしょうか？なければ私の方ですね、先日日曜日も例えば防災の避難訓練なんかは実際的には出校日扱いしている。だから、そういうものも含めて実際の子供達にとって夏休みとか冬休み春休みあるんですけども、都会とか私立の学校なんかでは土曜日もやったりですね、さまざまとにかくそういう独自の教育をやっている町もありますし、特に私立なんかはやってるんですよ。そういうものも踏まえて、私は東松島市としてやれるものをインパクトのあるやり方をなんとかすることが、この際検討に値するのではないかと考えているんですね。やはり最終的には授業日数というかそれが最終的には大きな違いも出てくると思いますし、あと、今のこの資料の中では、私は非常にこの注目しているのは携帯電話のスマートフォンの問題なんですね。これを４時間以上やっている子は、非常にこの東北大学の先生もこのことについて、非常にこう警告を出しているんです。それで、ただし一方ではそういうスマートフォン会社とかそういう会社に対して、いろんな圧力的なものがあって、それは最終的にはマスコミでは意外と取り上げていないような状況が現実にはいろいろスポンサーの関係とかであるんですよ。だから私とすれば、市の大きななんていうか研修会とかPTAの研修会なんかで思い切ってこういう問題についてしっかりと警告を流すような講演会がですね、まあ現実的にはその先生について、私は県議会議員の時は講演を聞いているんです。ちょっと若干お金はかかるんですけども、すごく分かりやすく現実にはまさに数値がですねきちっと出てくるんですよ。そういうものというのはやはり、お父さん、お母さんも知っておく必要があるんじゃないかなと私はもっとこう具体的に、そういうものをして学力を向上させる対策ですね、少しインパクトのあるものにしてやらないとなかなか先ほど言ったようにですね、朝にご飯も出さないお父さん、お母さんがいるということになると、大変な問題なんですよ。だからそれをどうするのかも含めてもう少しなんとか、トータルすれば学力低下につながっているんですね、それは結果的には。朝飯食って来ない子は学力下がる、スマートフォンとかそういうやってる子は下がる、はっきりしているわけですから、その対策を何かで打ち出していけないと市民には伝わっていかないのではない

かと思しますので、ぜひ教育委員会の方でもその辺の考え方も含めて、議論してほしいなと思っております。以上です。委員の皆さんごさいませんか。これらについて。はい、鹿野さん。

○鹿野委員 はい、先ほどの朝ごはんと学力についてなんですが、この説明を聞いていて、ある私立高校でまず高校に登校したら、朝食を食べると言う高校があったんですね、それで子ども達がエネルギーをそこできちっと蓄えて授業に向かう、そうすると、成績も向上するというような信念を元にやってる高校があったんですけども、まさにこれはその数値を表しているのかなと思って感心しました。ただ、あの13名中8名の方について朝食を作ってもらえないというところがあったんですけども、これもまた別として何か方法を考えていくとしても、やはり朝食をきちんと食べさせて、一日のエネルギーを持たせるというのが必要なんじゃないかと思えます。

○渥美市長 はい、まさにそのとおりなんですね。家庭教育に入っちゃうんですけどね。そうして何かみんなで子ども達の教育も大事ですけど、ご父兄の教育にも入らざるを得ないような、だからそういう面では逆にセミナーとかですね、講演会とか何かをして、もう少し具体的にやるというのが、まあ逆にいかにそういうことをやっても、その問題の人が逆にその場に来ないのが、現実な姿なんですね、逆にね、今度は実際のところ。しかし何もしないでいいのかというところありますので、何とか前向きにこの問題、次のテーマでもいいんですけど、捉えておいてもらいたい、あと要するに授業日数の問題ですね、教育長さん何かありましたら、考えでもいいんですけど、ありませんか？

○工藤教育長 あの、ニュースになりましたねどっかの村で、夏休みを10日だけにしていうのがあって、私はそこまで極端ではないんですが、でも授業日数を確保するという事は大事な事だと思っています。学校週5日制が始まった時に、土曜日日曜日が休みになって、スポーツ少年団とかそういう社会教育の場に子ども達が参加するという事で、非常にいい意味もあるのですが、そこで感じたのは家庭の格差がそのまま子どもの格差につながりかねないという危機感があったんですね。これまで土曜日授業をしていたのがなくなるので、その時にあるご家庭は例えば塾に行かせるとか、あるいは読書をするとかそういう習慣のあるご家庭と、全くなくてですねただ子どもは少年団にも行かないで、ただ遊んでしまう子どもさんの格差は出てくるだろうという危惧はしていたわけで、それが今実際に先ほどのそれが必ずしも下位層とは限らないけれども、その下位層の子ども達をとこのをなんとかそこを救う手だてはないだろうか、それで土曜日の例えば学び支援の方の活動などをやっておりますが、なかなかやはりそういう子供さんあるいはそういうご家庭は出してもよこさないということで、来ていただきたい方が来ないというのは同じ構造だと思います。ですからそういう意味で授業日数を増やすというのが、例えば5日間でも休みを減

らして増やせばだいたい五六30時間くらい増える計算になりますから、何かそういうことも工夫してもいいかなと、あるいは土曜授業についてもやり方を工夫しながらですね、検討する価値はあると考えております。ぜひこれは、委員の皆さまにも考えていただきたいと思います。

○渥美市長 今教育長さんの方から5日位ですね、実際は一週間休みを短くするという事なんでしょうけど、先生方のそれぞれの教育、石巻管内の全体の研修の日程なんかとの絡みもありますけど、私も可能な限りはぜひそういう形にして、子供たちがここは東北ですから、夏休みが多少だいぶ暑さっていうのは関西とか東京に比べればかなり違うんですよ。だから逆に言えば私は夏休みが一週間位短くても新しい東松島市の合作としてはいいのかなと、私は思ったりもするんですけど、しかしこれは私の考えでございますから、委員の皆さん菊池委員さんどうでしょうか、こういう問題について。

○菊池委員 確かに最近の傾向として教育長がおっしゃられた学校は週5日制でその時はスポ小をやったり、ただ最近のお子さんってスポ小に入らなくなっているお子さんが多く、やはり時代なのかと思っております。休みを減らす、減らさないはずいぶん前に土曜日はどうなんですかと教育長に一回聞いたことがあったんですけども、私は増やすというか賛同しますけれども、ぜひ教育長が今教師塾等やっていますので、実際数値を上げる人材の教育をしっかりやられているので、子供たちもやっぱり興味ある先生の授業は聞くとと思うので、そういった人材を現場の先生方を教育していただいてからでもいいのではないかと思っています。それでもだめであれば、週休2日制を仙台のような二学期制という方向に持っていくのもいいのではないかと思っています。

○渥美市長 福田委員さんはどうですか。

○福田委員 私も先日の防災訓練についていろいろ考えまして、あの日を登校日にして別な日を振替休日にしてというのはもったいないなと思っておりました。あと、また中学校になりますと中体連が土日に開催されるために、その分のまた振替休日と。でも振替休日になってしまうとやっぱり授業日数が少なくなってしまう、それから陸上競技になるとその日の登校は午前中で終わりということがありますので、そうしますと丸一日のうちの3時間ないし4時間は学校で授業を受けることが出来ないとなると、やはり今の学力低下とどうしても結び付けてしまうところがあるので、その辺をもう少し考えていかなければいけないなと私も思っておりました。

○渥美市長 はい、ありがとうございました。次は木村委員さんどうでしょう。

○木村委員 私も学力を向上させるためには、休暇とか夏休みを減らすことには賛成です。ただし、先生方の今よく報道で先生方のブラック企業と言われるくらい先生方の残業が出ない分、学校で残業しながら対応しているというところも目を向けなければならないところかなと思っております。あと先ほど親御さんの

教育ということで食育もそうなんですけど、私もPTAの方を何年かやらせていただいて、本当に来てほしいなという方がセミナーとかにはなかなか出席していただけないので、一番最初の入学式の日というのはたいていの親御さんは出席されるので、一番最初の時に講演だったり講習会なりをやっていただけたら必ずそれは見ていただけるんじゃないかなというふうに思っております。

○渥美市長 はい、ありがとうございます。はい、鹿野さんどうぞ。

○鹿野委員 はい、今の木村委員の案に賛成です。私も福祉関係にいた関係上、ご父兄の方が皆さん働いていらっしゃる。そうすると、いつ皆さんに集まってもらっていい講演なんだけども集まってくれないという悩みは常にありました。そして、ぜひ聞いてもらいたい家庭の方が、やっぱり授業参観や保育参観をしても来られないという悩みは付きまತ್ತたんですけども、やっぱりそういうふうな総会入学式それから卒業式、そういうふうに皆さんが本当に集まって来る時を利用して、大切な講演会を何かやるというのはひとつの案かもしれないですね。それから、先ほどから出ました授業を少し増やしたらいいんじゃないかという件なんですけども、私の考えからすると私は福祉関係にいたものですから、働く親にとっては助かるなど単に思ったんですけども、ただ、いま木村委員が言われたようにそうした場合、学校関係の方はどういうふうな対処になるのかなと、そういう点はちょっと心配なところはありますので、学校関係の方にちょっとお話を聞いてみたいと思います。

○渥美市長 はい、じゃあ学校教育課長。

○仲上学校教育課長 はい、いろいろご意見本当にありがとうございます。授業時数、授業日数の問題は平成32年の教育課程が変わる、学習指導要領が変わりますので、そこからは本当に大変になります。小学校で3、4年生に外国語活動が入ってきます。5、6年に英語が週に2時間入ってきます。そうすると、他の教科の時数は変わらないので、単純に言うと3年生以上の週の時間が1時間増えるんです。学校としては7時間授業を考えています。それから、朝の15分間をモジュールタイムと言うんですが、15分間を月、火、水とやってそして45分間を確保して、それを1時間の授業に振り替えようかというのも考えています。まあ、それを抜きにしても、特に中学校3年生なんかは毎年ですね授業日数、授業時間の確保は難しい状況になっています。その辺を踏まえて教育委員会として、土曜授業をどうしようか、それから夏休みの短縮をどうしようか考えていかなければならないと思っています。2つ目はやっぱり学びの場の確保ということで、今、放課後学習会とか土日それから、長期休業にイートっ子学習会という形で学び支援員さんを充ててですね、家でなかなか学習機会を持ってない子供たちのための施策をしているんですが、残念ながら来てほしい子供たちがなかなか集まらない。この辺も考えていかなければいけないと思っています。最後にスマホの問題なんですけど、現実的にやっぱり子供たちの使用時

間って一日非常に長いです。ただ、これを学校とか教育委員会で規制するというのは、市長さんがおっしゃったように非常に難しい問題をはらんでいます。ただ、実践されている学校の中では、ノーICTデーと言って例えば、毎週水曜日はしないという日を決めたりですね、それから、9時以降はスマホ携帯はしないと、ただ、これはどこが決めているかと言うとPTAが決めているんです。ですので、やっぱり学校の先生が言ったり教育委員会が指示するというのはやっぱりかなり抵抗がありますので、それを、PTAとして決める。そういった意味では、もしかすると今後コミュニティスクールがそういった働きかけの大きな機能を担うのかなというふうにも考えております。その実践校では、現実的に家庭での学習時間が増えて、学力が向上しているという事例もあるので学校も考えていきたいなと思っています。以上です。

○**渥美市長** はい、その他に付け加えたいことはございませんでしょうか。はい、鹿野さんどうぞ。

○**鹿野委員** はい、ちょっとお聞きしたいんですけども、今のお話で放課後学習会というのをやっているというお話でしたけども、その時の担当者というのは職員の方ですよ。

○**渥美市長** はい、学校教育課長さん。

○**仲上学校課長** はい、担当の黒沼の方から。

○**渥美市長** では、黒沼さんよろしくお願いします。

○**黒沼指導主事** 指導主事の黒沼です。ただいまのご質問についてお答えを致します。基本的に今、今年度実際に行っていてスタートをきったのは、赤井小学校さんです。これは放課後1年生から3年生あたりですと、2時半あたりから放課後というかたちになります。先日実際に私も足を運んで、私自身も現場がどういう状況か確認してきましたんですけども、2クラス位の学級の中に子供たちがいっぱい放課後の時間の中で、自分で算数を中心とした学習をしております。できる子は自分で進めるというかたちですが、そこには担当の学校の先生方がついております。ただ、どうしても一人での学びが進められない子が中に普通におりますので、その子たちについては当然学校の先生と、それから市の方でお願いしている学び支援員と言いますか、先生方に配置をしておりますマンツーマンで見させていただいているという状況です。前半が1年生から3年生まで、後半が今度はそれ以上6年生までというかたちで、4時あたりまでの時間を使っているというのが現状でございます。もうひとつ大曲小学校さんも、ぜひそれを進めたいということで今進めております。本当は7月の頭からというところで計画をしておりましたが、たまたま学校の午後の行事と重なっていることもあって、さらにそういった学びの場をより整理して取り組ませたいというお話もあって、実際には9月からスタートするということです。他の学校もそういった部分でその実践を共有化してですね、うちの学校でもというようなところで

進めていきたいなと思っております。以上でございます。

○渥美市長 はい、指導主事の黒沼さんからお話がありました。あとこのことについてよろしいですか。鹿野さん、どうぞ。

○鹿野委員 ありがとうございます。それでですね、この間ちょっと新聞に基礎学力が低下しているんだというふうなお話をされる方もあったんです。でも、今のお話を聞きますと各学校そういうふうにして、どのようにかして基礎をきちっとさせようというか学びとってもらおうと努力なさっているのが見えていますし、また逆にですね、教育の方々はこのようにして放課後学習会に参加されるということは、他の仕事もあるわけですよ。その点の労力も大変なわけですよ。

○渥美市長 はい、じゃあ黒沼さん、より詳しくきちっと出して下さい。

○黒沼指導主事 主管でいる先生方にはクラスを持たない先生方も入っております。主幹教諭の先生であったり、教務主任を持たれている先生だったり、当然その先生方も放課後といってもですね、文章処理含め事務整理含めさまざまな仕事があると思います。私もそういうのを現場で経験してきました。でも、子供が学校にいるうちはやっぱり子供が最優先、これはやっぱり現場の使命だと思いますので、子供が帰ってからその部分を上手く調整してと、あるいは上手く分担してと、これ少しあるから少しお願いね、と先生方のやりとりの中で工夫しているのも現状です。今のところ週に1回というところで進めているところですので、そういった中で先生方の負担感や課題等もしっかりと把握して、さらに支援員の先生がもう少し配置できないかとか、そういったところで調整を図って考えていきたいなと思っております。よろしいでしょうか。

○鹿野委員 ありがとうございます。先生たちが頑張ってくださっているので、たぶんそのうち基礎の学力も実がなってくると思いますので、ただやっぱり先生たちが一生懸命やっている姿っていうのは、他の私のように全く知らないでいる父兄もいますので、たまに教育長さんだったり市長さんが激励の言葉を掛けてあげていただければ幸いかなと思います。よろしくお願い致します。

○渥美市長 はい、あとないですか。いいですかこの辺で学力向上対策については。いろいろ課題はありますが、いろんな面で一步前に進まないとも何も解決しませんので、まずは一步前に進んでそこでまた課題が出たら、また走りながら考えて対応策を続けていくというのも大事だと思うんですね。ぜひ前向きにひとつよろしくお願い致します。次は(4)の不登校対策についてですね。また学校教育課長よりお願いしたいと思っております。よろしく申し上げます。

< (4) 不登校対策について 学校教育課長より説明 >

○渥美市長 はい、ありがとうございます。では、ただ今の学校教育課長さんの説明に

対して何かございませんか委員の皆さん。大変複合的にひとつの問題ではないというところだけははっきりしているし、ただ我々としても義務教育としてやって、最後の中学校3年が学校に行けなくなっているという状況は、その子の将来において果たしてどうなっていくのかなと非常に心配なんですよね。だから、そのへんが特にちょっと心配ではあるんですが、ただ、その処方箋で何か具体的に何かやれるのかっていうのはなかなか、今やっているのが学校の最善の方法なんですよね。それも含めて何か意見があればどうぞ。教育長さんそろそろ時間もあれなので、まとめながらひとつその辺も含めてお願いします。

○**教育長** 不登校だった子供がですね、将来大人になった時にこういう話をしていました。自分が中学生だった時に1回も学校に行かなかったけれども、先生が玄関に来て声を掛けに来てくれているのは分かっている。それは、とても嬉しかったと。でも、行けなかったという話がありまして、何かその支えになるもの、その子供にとってのという意味での登校支援といいますか、そういう関心を持ち続けるという事が非常に大事な事じゃないかと思っています。今の相談員の先生は各中学校に1人ずついるんですけども、非常に熱心に家庭訪問をしてくれていまして、それが再登校につながっている例もありますし、教室に入れないまでも別室登校につながっている例もありますので、今最善は尽くしているとは思いますが、なお、このなんとかですね自立していけるような子供自身の力も少し強い気持ちを持てるような指導を、これは中学校になってからではなくて、やっぱり小学校からしっかり指導を積み重ねていきたいなと思っています。そういう意味では、例えばさっきのスポーツ少年団の子供の参加率等も少ないという話もありましたけど、いろんな場でいろんな大人が関わって子供をぜひ育てていきたいなと思っていますので、ぜひ皆さまもよろしくお願ひしたいと思います。

○**渥美市長** では、不登校問題はこれで閉めたいと思います。それでは、最後は（5）その他について事務局お願いします。

<（5）その他（石巻地区中総体一次大会結果について）学校教育課より説明>

○**渥美市長** その他の報告、あとはないですか、いいですか。はい、それでは私が受け持っております今日の司会進行役ですね、座長として終わりたいと思っております。以上で予定の議題すべて終了しました。各委員から何かございましたら、質問を最後に出していただいて結構ですけどありませんか。ないようでございますので、議長の職を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。

○**小山総務課長（司会）** それでは、閉会のごあいさつを工藤教育長より申し上げます。

○**工藤教育長** 今日は渥美新市長さんの初めての総合教育会議ということで、大変貴重な時間をありがとうございました。市長さんが公約で学力向上とか、不登校対策

等をしっかりお話いただいて、それを具体的に実現したいという強い思いをお持ちでございまして、そして、市長さんのバックアップをいただきながら教育委員会としても具体的に一步踏み出すという先程のお話のとおりですね、進んでいきたいと思っておりますので、これからもぜひご支援いただきながら教育向上に努めて参りたいと思っております。今日は大変ありがとうございました。

○渥美市長 どうもありがとうございました。ご苦労さまでした。

7 閉 会 午後5時00分